

東急モールズデベロップメント

「FRY to FLY Project」に参画する商業施設が7つに拡大 飲食72店舗で発生する廃食用油の提供で脱炭素社会の推進に貢献

株式会社東急モールズデベロップメント（本社所在地：東京都渋谷区、代表取締役社長：山川貴史、以下：当社）は、国内資源循環による脱炭素社会実現に向けて設立されたプロジェクト「FRY to FLY Project（以下：本プロジェクト）」に2024年4月から参画し、みなとみらい東急スクエア（所在地：神奈川県横浜市西区）の飲食店舗で発生する使用済み食用油（以下：廃食用油）を提供しています。加えて、2025年3月1日（土）からグランベリーパーク（所在地：東京都町田市）で、4月1日（火）からは、たまプラーザ テラス（所在地：神奈川県横浜市青葉区）および港北 TOKYU S.C.（所在地：神奈川県横浜市都筑区）、青葉台東急スクエア（所在地：神奈川県横浜市青葉区）、武蔵小杉東急スクエア（所在地：神奈川県川崎市中原区）、五反田東急スクエア（所在地：東京都品川区）の飲食店舗など、合計72店舗で発生する廃食用油を提供します。



FRY to FLY Project



▲ 7つの商業施設

▲ FRY to FLY Project キービジュアル

本プロジェクトは、家庭や店舗などで発生する使用済み食用油という国内資源を原料とする SAF（Sustainable Aviation Fuel、以下：SAF）で、航空機が飛ぶ世界を実現するプロジェクトです。みなとみらい東急スクエアの9つの飲食店舗では、これまで廃食用油を約2,700リットル（2024年度実績見込み）提供してきました。2025年3月以降は、新たに6施設を加え、当社が運営する合計7つの商業施設72店舗で年間約66,000リットル（2025年度見込み）の廃食用油を提供し、これによるCO2排出削減効果は年間およそ150トン程度*の見込みです。既に提供している店舗からは「廃棄物処理コストの削減のみならず、サプライチェーンの健全化につながっていることに意義を感じている」という声や、新規の参画店舗からは「私たちの店から出る油が航空燃料に変わると聞いて驚いたが、少しでも環境に貢献できるのはうれしい」という声をいただいています。参画する商業施設と飲食店舗を拡大することで、昨今上昇する店舗運営コストを効率化しながら、資源の有効活用による「循環型社会の実現」および「脱炭素社会の推進」に貢献します。

2025年は、本プロジェクトの取り組みの積極的な発信に加え、家庭で発生する使用済み食用油の回収などのイベントの開催を予定しています。当社は、商業施設運営を通じてサステナブルなまちづくりを推進しており、今後も、多様なステークホルダーとの共創により、商業施設の運営を通して、サステナブルな社会の実現と環境に優しいまちづくりに尽力します。

※ CO2排出削減効果は、ICAO CORSIA 資料に基づき日揮ホールディングス(株)にて算出

■ 廃食用油を提供する飲食店舗（複数施設に出店する店舗の一部を五十音順に記載）



新とんかつ
さぼてん

<とんかつ新宿さぼてん>
グランベリーパーク
たまプラーザ テラス
武蔵小杉東急スクエア
みなとみらい東急スクエア

このうどんは、生きている。

丸亀製麺

<丸亀製麺>
グランベリーパーク
たまプラーザ テラス



WIRED
KITCHEN



WIRED
CAFE

<ワイアードキッチン/WIRED CAFE>
グランベリーパーク
武蔵小杉東急スクエア

■ 「FRY to FLY Project」について

「FRY to FLY Project」はご家庭や店舗などで発生する廃食用油という国内資源を原料とする SAF で、航空機が飛ぶ世界を実現するプロジェクトです。SAF が本格的に導入されるためには多くの廃食用油が必要となりますが、現在、家庭の廃食用油の多くは廃棄されており、回収された廃食用油についても年間 10 万トン以上が国外に輸出されているといわれています。

設立主旨に賛同する参加企業・自治体・団体が相互に連携しつつ、家庭や店舗などから排出される廃食用油の収集を促進するとともに、自治体との連携により廃食用油の SAF への活用に関する教育活動を実施するなど、日本国内において脱炭素化に向けた資源循環の促進に積極的に参加できる機会の創出を目指しています。

■ 国産の持続可能な航空燃料 SAF 製造の原料として廃食用油を提供する事業について

当社は、日揮ホールディングス株式会社（本社：横浜市、代表取締役会長 CEO：佐藤雅之、以下：日揮 HD）、株式会社レポインターナショナル（本社：京都市、代表取締役：越川哲也、以下：レポインターナショナル）、合同会社 SAFFAIRE SKY ENERGY（本社：横浜市、代表者：秋鹿正敬、以下：SAFFAIRE SKY ENERGY）と、飲食店舗などの廃食用油を国産の持続可能な航空燃料 SAF 製造の原料として提供する事業（以下：本事業）について 2023 年 8 月 3 日に基本合意書を締結しています。

日揮 HD などは 2022 年 11 月 1 日付で廃食用油を原料とした国産 SAF の製造や供給事業を行う「SAFFAIRE SKY ENERGY」を設立。2024 年末に国内唯一となる国産 SAF 大規模生産プラントを完工し、2025 年度初頭の運転開始を目指しています。排出事業者は発生する廃食用油を提供し、レポインターナショナルが収集。その廃食用油を使い、SAFFAIRE SKY ENERGY が計画する SAF 製造装置向けに引き渡します。SAFFAIRE SKY ENERGY は、国産 SAF の大規模生産プラントにおいて、レポインターナショナルから引き取った廃食用油を原料とした SAF を製造。日揮 HD は、廃食用油を原料とする SAF 製造事業に関するサプライチェーンの全体構築を行います。

当施設は、飲食店舗などから発生する廃食用油を提供するだけでなく、出店する飲食店舗に対し、SAF の環境価値啓発および収集協力の呼びかけも行うことにより、本事業を後押しします。



▲ 完工した SAF 製造装置
(コスモ石油堺製油所構内)



▲ SAF の原料となる廃食用油受け入れ施設
(コスモ石油堺製油所構内)

関連プレスリリース

[東急モールズデベロップメント、国内資源循環による脱炭素社会実現に向けたプロジェクト「FRY to FLY Project」に参画](#) (2024年3月25日)

※ 画像は全てイメージです

※ 本ニュースレター記載の情報は3月27日時点のもので、予告なく変更となる場合があります

“Tokyu Malls Development Sustainability Action”について

当社は、さまざまな規模の商業施設を運営する中で、SDGsの認知度の高い東急線沿線にお住まいの皆さまに、より身近に、気軽に、SDGsに参加できる環境を提供することが使命と考え、積極的にサステナビリティ活動を推進してきました。当社が行うサステナビリティ活動を“Tokyu Malls Development Sustainability Action”として発信することで、サステナブルな活動を通じて地域のお客さまや、事業パートナーの皆さまとのコミュニケーションや共創の機会を増やし、共に社会課題の解決に取り組み、地域の魅力向上とサステナブルな社会の実現に貢献します。

株式会社東急モールズデベロップメントについて

株式会社東急モールズデベロップメントは、商業施設（ショッピングセンター）の運営を行う、東急グループの一員。東急線沿線を中心に、駅直結もしくは駅前などの好立地において、駅利用者や地域にお住まいの方々のさまざまなライフスタイルに合わせた店舗ならびにサービスを提案。主な運営商業施設は、「二子玉川ライズ・ショッピングセンター」「たまプラーザ テラス」「グランベリーパーク」「港北 TOKYU S.C.」、「武蔵小杉東急スクエア」などの“東急スクエア”ブランド、東急線駅構内・駅近隣に展開する商業施設ブランド「etomo（エトモ）」など。

<https://www.tokyu-tmd.co.jp/>